



## 「遊ぶ」から育まれる子どものからだと感覚

～子ども時代の体験&危険をコントロールできる力の育ち～

TOKYO PLAY アンケートより（都内5ヶ所のイベント会場 339名から）報告  
 テーマ≪10歳まで経験しておきたい危険なこと≫ トップ10 2012年4月現在

- ① 環境による危険なこと(高いところ)・・・木登り・飛び降り、塀のぼり、階段からジャンプ
- ② 道具をつかった危険なこと(火)・・・火に触れる・たき火・火をつける・アイロン・ライターを使う
- ③ 道具をつかった危険なこと・・・包丁・ナイフ・りんごの皮むき・鉛筆を削る・手を切る
- ④ 環境による危険なこと(水)・・・川遊び・水に触れ合う、流れ・海・池など
- ⑤ 身体に関わること・・・けが・転ぶなど
- ⑥ 遊び・・・秘密基地を作る・仲間だけの遊び・ダンボールで土手すべり
- ⑦ その他(一人で冒険・いたずら)・・・夜の散歩・留守番・一人で遠くに行く・花屋さんの花を摘む
- ⑧ 乗り物・交通に関する事・・・自転車二人乗り・自転車で転ぶ・一人で電車に乗る・いかだ
- ⑨ 大人との関係にかんすること・・・わざと約束を破ってみる・知らない大人とのコミュニケーション
- ⑩ 立ち入り禁止の場所に入ってみる・・・(大人としては、認めるわけにはいきませんが・・・)

### 学びにつながる危険に触れる機会を。

大きなけがや事故は誰もが避けたいものです。その一方で、私たちには生活の中でたくさんのちょっとした危険に触れる機会がありました。大人の目の届かないところだからこそそのイタズラもありました。その中で「何が危ないのか」を経験したり、身の回りの大人から声をかけられたりすることで、たくさんのお話を学んできました。

### 「いのち」を守ろう。

子どもたちが豊かに成長するためには、どんな経験をさせてあげたらよいのでしょうか？ もちろん、危険に触れる機会は大切と言っても、私たちは子どもたちの「からだ」という命(Life)を積極的かつ確実に守っていかなければなりません。同じように、子どもたちの「こころ」という命(Spirit)も守っていききたいものです。ちょっとしたドキドキ体験を経験してみたいのは、大人も子どももいっしょ。そんな角度から、子どもが遊ぶ時間や場所のこと、考えてみませんか？

2012.06